

カトリック長崎大司教区 広報委員会
中田輝次
〒852-8113 長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL 095(843)3869 FAX 095(843)3417
郵便番号 01880-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
<http://www.nagasaki.catholic.jp>
印刷所 株式会社 藤木博英社
〒850-0852 長崎市万屋町5-13
TEL 095(821)2146 FAX 095(821)2148



平和行進に先立つ3者による平和アピール

今年も平和を願い、長崎で8月9日、佐世保で8月15日に平和祈願祭が開催された。長崎では、海外から来日していた3者の平和アピールに耳を傾け、たいまつ行列の後、浦上教会でミサがささげられた。佐世保ではアルカスSASEBOでミサをささげ、平和への具体的な行動を確認し合った。

8月9日、長崎は64回目の原爆の日を迎えた。

長崎大司教区・平和祈願祭実行委員会主催の今年の平和祈願祭は、平和公園から式典を開始し、教会内で平和のためのミサをささげた。

午後6時45分、浦上教会の鐘を合図に、いまつ行列で浦上教会へと行進し、教会に掲載された。高見三明大司教が祈りで会衆を招き、来日した代表3者が平和アピール(一面左に掲載)を行った。

平和アピールに力を得た会衆は、たまたま手に、浦上教会に對し、原爆投下に対する悲しみと陳謝を伝えた。写真左は、共に来日した米国ジョアン・クロック平和研究所所長ウイリアム・ヘッドリー神父。右は、共に同胞、兄弟姉妹たちに想像を絶する痛みを与えたことについて、皆さんのがんのゆるしをこころに願うものでした。(略)わたしたちは被爆者の方々の兄弟姉妹として、被爆されを苦しみを分かち合い、何十万もの失われたのちを悼むものです。(略)わたしたちは広島、長崎原爆投下64周年のこの年を喪に服する日々としてささげてまいりました。被爆から生き残れた方々が、人類家族全員のよりよい善のためという新しい精神で戦禍から立ち上がり生き抜いてこれらに断固として反対いたします。(略)核



痛みを与えたことによるしを願う
ロバート・クッシング神父

アメリカから來
日した「パックス・クリスティ」のメンバーナンバー(写真右)。

韓国、島根県三刀屋、長崎3つの如己の会を代表して、韓国如己の会総裁李文熙・大邱教区前司教が同席し、会のメッセージを崔玉植氏が代読した。

『長崎の鐘』で有名な永井隆博士は、この世の人は皆「他人を己の如く愛さなければならぬ」と、「如己愛人」を実践しながら、この世界から核兵器はなくならないと約束し、ミサの参列者一同が喜びに満たされた。

述べ、この日の終わりに共に祈ることができたことの感謝を述べ、この日の終わりに共に祈ることができたことの感謝を述べ、この日の終わりに共に祈ることができたことの感謝を述べ、この日の終わりに共に祈ることができたことの感謝を述べ、この日の終わりに共に祈

えたのと同じように、わたしたちにも生きる勇気が与えられるようにお祈りいたします。

核兵器の製造に反対します

代読者 崔玉植氏

約1300人の参加者が浦上教会でのミサに集まつた。

感動を教皇さまに伝える

と約束し、ミサの参列者一同が喜びに満たされた。

述べ、この日の終わりに共に祈

えたのと同じように、わたしたちにも生きる勇気を与えられるようにお祈りいたしました。

平和の神に回心の恵み願う

ジャン=ルイ・トーラン枢機卿

『長崎の鐘』で有名な永井隆博士は、この世の人は皆「他人を己の如く愛さなければならぬ」と、「如己愛人」を実践しながら、この世界から核兵器はなくならないと約束し、ミサの参列者一同が喜びに満たされた。

述べ、この日の終わりに共に祈

えたのと同じように、わたしたちにも生きる勇気を与えられるようにお祈りいたしました。

約1300人の参加者が浦上教会でのミサに集まつた。

感動を教皇さまに伝える

と約束し、ミサの参列者一同が喜びに満たされた。

述べ、この日の終わりに共に祈

えたのと同じように、わたしたちにも生きる勇気を与えられるようにお祈りいたしました。

約1300人の参加者が浦上教会でのミサに集まつた。

感動を教皇さまに伝える

ペトロ岐部アラン殉教者列福式 DVD記録集
教区本部事務局は、カトリック中央協議会発行の「ペトロ岐部と187殉教者列福式」DVD(64分と全記録集)と「ペトロ岐部司祭と187殉教者列福式」公式記録集を、各教会へ一部ずつ進呈する。現在中央協議会へ発注しており、各教会には9月上旬発送予定。



皇さまが長崎を訪問されたのは今から28年前(1981年)の2月25日でした。教皇さまは浦上教会で司式されました。わたしは当時、神学科3年生でしたので、浦上教会で行われる司祭叙階に併せて、助祭叙階も教皇さまにしていただきました。しかし願いはかなわず、多少残念な気持ちになりましたが、それでも教皇さまの長崎訪問は、わたし

いたと思つて強烈な印象と司祭への思いをさらに強めてくれました。そのことが司祭年連載企画にとつて強められて残り、司祭へ思ひをさらに強めてくれました。わたしは、當時、神学科3年生でしたので、浦上教会で行われる司祭叙階に併せて、助祭叙階も教皇さまにしていただきました。しかし願いはかなわず、多少残念な気持ちになりましたが、それでも教皇さまの長崎訪問は、わたし

恩に報いるために

山脇 守



司祭年連載企画

「司祭が司祭であるために」③

神学生たちと一绪に生活しながら、将来彼らが、神さまの恵みや信徒の方々からの恩に報いる司牧者になつて

ています。

神学生たちは小教

区での司牧

を離れて、神学生の養成に携わつ

ています。

現在、わ

かが果たせません。恩返

しがけないことを病人さ

んに言い出しました。

「あなたは朝8時からロザリオをこの神学生のためにしてください。」そして、その祈りの願いは1

人に留まらず、次の病人

さんには「あなたは8時30

分からロザリオしてください」とお願いし、その後

も、次々にお祈りを頼ん

でくれたのです。病人さ

が良くしてくださるので

追いつかないのです。今

でも神さまの恵みに答え

ることができます。今

が、みんなの恩に報いる

ことができないでいます。

かつた恩人がたくさんい

るのではないかと思うよ

うになり、次第に、「恩に

報いるための司牧をしよ

う」という思いが強く湧い

てきました。それがわた

しの司牧の原点になつた

ところが、小教区で働

くようになつて恩返しし

ようと頑張つても、なか

なか果たせません。恩返

しそりはるかに信者さん

が良くしてくださるので

追いつかないのです。今

でも神さまの恵みに答え

ることができます。今

が、みんなの恩に報いる

ことができないでいます。

か、みんなの恩に報いる

ことができないでいます。

聖書愛読マラソンに挑戦しよう

「聖書愛読マラソン」事業、03年度から始まったが、09年度からは長崎教区評議会と聖書愛読マラソン大会実行委員会が協賛、下記のような努力目標を掲げて取り組む。

①08年に開催されたシノドス(世界代表司教會議)のメッセージを十分に読み味わい、分かち合う。②自分の聖書を持ち、毎日読んで、神のメッセージを自分の生活に活かしていこう。③小共同体の中で神のみことばを分かち合おう。

今年度の計画予定

長崎北・中・南、佐世保、平戸、上五島、下五島の7地区それぞれの教区が「聖書の四福音書」の一福音書を選択し、期間内に読み進めていく。

- マラソン開会式 10月4日(日)午後2時30分 大司教館。7地区の代表者に渡す聖書の授与式。
- 中間報告 12月13日(日)午後1時
- 完走連絡 2010年3月21日(日)までに報告書提出。
- 完走報告会 同3月28日(日)。

実施要領

目的 それぞれの教区が「聖書の四福音書」の一福音書を選んで読むことにより「聖書」に親しみ。
期間 2009年10月4日(日)~2010年3月14日(日)
方法 マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ四福音書を7地区評議会で話し合い、それぞれの教区が「聖書の四福音書」の一福音書を選択し読み進める。
進め方 実行委員会(案)①教会共同体としてミサ参加者全員で読む。CD、録音テープの活用。②家庭中心に班を回す。班長を回す(個人の聖書を使用する)③グループ中心に壮年会、婦人会、各委員会④個人としてマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネ四福音書を通読する。
 参加者は申込書(小教区に配布)に記入し、マラソン実行委員会に送付。通読した場合は、完走連絡書を送付ください。
 朗読の方法や仕方は各地区評議会で決めていただく。

前回の第6回聖書愛読マラソン大会の実績

参加=125人(信徒75、修道女50) 地区別参加=長崎北8、南9、中21、佐世保6、平戸12、上五島6、下五島6、修道会50、教区外7。最年少者20代3、最高齢者80代8。計6回の総参加者数2,197人、完走者総数1,139人、完走率51.8%。

「フレーフレーこども！」 召命フェスティバル

8月10日、平戸文化センターにおいて、教区開かれられた。第4回召命フェスティバルが長崎教区主催による。



8月10日、平戸文化センターにおいて、教区開かれられた。第4回召命フェスティバルが長崎教区主催による。午前中の召命祈願ミサは50人を超える大きな集まりとなつた。

午前中の召命祈願ミサでは、先人たちの信仰から、目標や夢を持つこと、それをかなえるために仲間が必要なことが説かれた。

「神父さま、シスターになつてください。仲間になつてください」と熱く子どもたちに訴えられた。

このミサの献金は3年後

に献堂100周年を迎えた。

このミサの献金は3年後

